



みのい

寺井小学校 No.7
令和2年7月16日(木)
発行：校長室(坂下 和之)

6年生 輝いて生きる① 7/6(月)

6年生の総合的な学習の時間では、「輝いて生きる～ふるさとで活躍している人から学ぼう～」をテーマに、ゲストティーチャーをお招きして直接お話を聞きます。第1回目は、ソウルオリンピックに飛び込み競技で出場された浅田雅子先生から、これまでの競技人生や現在取り組んでいること、将来の目標等について、語っていただきました。6年生の中には浅田先生からスポーツクラブで教えていただいた児童もいて、興味深く聞いていました。6年生からは「失敗を恐れずに挑戦しようと思った。」等、前向きに生きようという感想が出されました。貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。



思いを語る浅田雅子先生

1年生 たなばたまつり 7/7(火)

1年生全員で、「たなばたまつり」を行いました。寺井図書館の先生に来ていただき、「手遊び」や「本の読み聞かせ」や「パネルシアター」をしていただきました。読み聞かせでは、ぐんぐん空に向かって伸びる絵本に、子どもたちはとてもおどろいていました。たなばたの願い事がかなうといいですね。



絵本の読み聞かせ

4年生 総合 八丁川について聞く 7/8(水)

4年生の総合的な学習の時間では、「身近な環境を調べよう」をテーマに、校区を流れる八丁川について調べています。最初は、4年生全員で八丁川へ行き、自然やごみの様子を調べました。次に、昔の八丁川の様子について、町の先生（平野俊也先生、松村芳明先生）からお話を聞きました。

まず、平野先生からは、八丁川が流れている区間について話していただきました。八丁川は手取川から徳橋用水に分かれ、途中から八丁川となり、梯川へとつながっていることを、拡大地図で説明していただきました。松村先生からは、昔の八丁川の様子や生き物、植物について教えていただきました。

昔の八丁川は今の川のように平らではなく、背の高い葦が生えていて土が積っているところや深いところがあったそうです。その葦の中にヨシキリという鳥が巣を作っていて、カッコウがたく卵していたそうです。八丁川にいた魚（ナマズ、コイ、フナ、ウナギ、カジカなど）を描いた水彩画を見せて説明していただきました。また、魚をとる道具を持ってきていただき、使い方を実演して下さいました。また、昔は学校にプールはなく、八丁川に泳ぎ場があってそこで泳いだそうです。昔は大きな荷物（お米、肥やし、瓦など）を運ぶのに、舟を使って運び、船頭さんがいたそうです。能美電が出来た頃には舟で運ぶことはなくなったそうです。子どもたちからも、率直な質問がたくさんでました。それに一つひとついねいに答えていただきました。興味をもったことを中心に新聞にまとめ、昔の八丁川について記録を残していきます。貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。



うなぎの捕り方を説明

6年生 輝いて生きる② 7/13(月)

第2回目は、本校の学校運営協議会委員である たけもと農場の竹本彰吾様から、農家を継いだ訳や農業の1年間の仕事、新たな挑戦等について、教えていただきました。竹本様は「周りの期待に応えること」「身は一代、名は末代 という祖母の教え」「誰もやっていないことやみんなと違うことへの挑戦」の3つ考えを大切にされてお米作りに励んでいることを、実際の取り組みを紹介しながら伝えていただきました。6年生からは、「今までは農業に全く興味はなかったが、農業をやってみたくと思った。」等、自然と共に仕事をする農業に興味をもった人もいました。竹本さんの夢は「農業をなりたい職業ナンバーワンにすること」だそうです。ありがとうございました。



農業の喜びについて語る竹本彰吾様

2・5年生 ピュアキッズスクール 7/14(火)

能美警察署の水口様に来ていただき、「してもいいこと 悪いこと」について考えました。2年生はお友達が席を離れた際に友達のゲームをとって家に持ち帰り、お家の人に気づかれ、お家の人と一緒にゲームを返しに行って謝るという話でした。警察の方からは、「悪いことだと分かっているけど、ほしいという気持ちになってしまう時があるけれども、そこでぐっとこらえることが大事です。」と教えていただきました。5年生は、仲の良い友達に誘われて万引きをして見つかってしまい、自分もお家の方もとても悲しい思いをしまう話でした。いくら仲のよい友達の誘いでも、してはいけないことはきっぱりと断ることが大切であることを学びました。



ぐっとこらえることが大事

スマホ・ゲーム障害を予防するポイント

「特に心配なのは、夏休みなどの長期休暇です。夏休みの間にはまるアプリに出会い、生活リズムがくるってしまう、そして夏休みが終わっても学校に来られなくなってしまう。そんなことが起こる可能性が高くなります。本人も何とか学校に行こうします。しかし無理して学校に来ても楽しくない。そして忍耐が続かない。前頭前野が抑制されているからです。それで本人も焦ってしまい、訳が分からず、他に夢中になれるものを見つけられればスマホから離れられるはず、と考えて、家族も一緒になっていろいろ努力したりしますが、一旦脳が劣化してしまうと簡単には夢中になれるものも見つかりません。いばらの道が続くことになります。」

家族や本人にできる スマホ・ゲーム障害を予防するポイント

できるだけ与えるのを遅らせる（与えてしまったら終わり）

- ・脳に対するスマホ・ゲームの影響について勉強する
- ・周囲の親と連携する
- ・専門の講座を受ける（子どもとの話し合い方も学ぶことが重要）
- ・子どもとよく話し合う

与えた後は…（約束は必須だが破られるものと覚悟すること）

- ・夜間はやらない（神経の疲れをためない）
- ・直観を信じる（依存症の基準未満でもまずいと感じたら止める）
- ・時々数日以上デジタルから離れデジタルデトックスする（特に約束を破られた場合は必ずデトックスをする）

